校長室だより　**進修小学校151年目の創立記念日　7月14日**

7月14日は、進修小学校の創立記念日です。
昨年度150周年記念行事には多くの方にお世話になりました。そのときの記念講演の中で、学校の歴史についての話を聞かせていただいたと思いますが、 改めて、進修小学校の教育への思いを読んでください。

1873年（明治6年）流泉寺の「周文舎」において学校が創立されました。

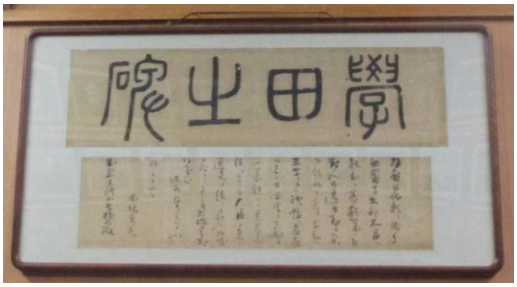
1874年（明治7年）には「国領小学校」に改名され、長谷、中村、柚津の子どもたちが学んでいました。棚原、野村の子どもたちは「温知校」で勉強していました。「温故知新」に由来した名前で、今までの知識を大切にして新しい発見をしてほしいという願いが込められています。

1885年（明治18年）、2つの学校は「崇徳小学校」（すとく）として一つになります。

しかし、崇徳は天皇の名前であることを指摘され解消しました。

中国古代の書「易経」の中の「君子特に進み業を修む」の語から「進修小学校」と名付けられました。1888年（明治21）です。

進修小学校は、市内の小学校のうち地名を採用しない数少ない小学校です。



進修小学校の歴史の中で忘れてはならないのが、学校田を設置し基本財産を作り、授業料撤廃のための取り組みがされたことです。

学校田によって収穫した米を売って、授業料にするために、当時の上田村長と玉島校長が働きかけました。 2人の熱意に学校田を寄付してくれる方が増え、学校に行く子どもも増えてきたようです。そして、兵庫県下でも有数の「教育村」と言われるようになりました。

学田は校区にあちこちにありました。今は学田の碑が校内にあり、先人の思いを引き継ぎ勉学に励もうと呼びかけられています。

地域の人々は進修の名に熱い思いと誇りを持って、子どもたちの教育活動を見守ってくださっていると感じます。

学田の歴史については、５年生が総合的な学習の時間に毎年取り組んでいます。子どもたちも地域の先人たちが築いてきた学校への熱い思いを知り、地域を誇りに思いながら学習に臨んでいけるように育てていきたいです。

進修小学校の校章は、中央に「進」の字が書かれ、その周りにカタカナの「コ」の字が ９ 個書かれています。「コ」が9個で「コク」つまり国を表しています。また、その外周は菱形でかたちどられ、その菱形の菱の音読みがリョウというところから、領を表します。これらを合わせて「国領」といています。その菱形は4つにわけられていて、これは4つの区（国領区、棚原区、東中区、柚津区）を表すとともに「小」の字も表しています。この校章は、昭和２３年１１月３日に決められています。

創立記念日にあたって、進修小学校の歴史を今一度振り返り、子どもたちにも語り継いでいきたいと思います。

※参考文献 国領区再発見他